

NPO法人ありんこに
関する詳しい情報は
公式ホームページ
arinnko.sakura.ne.jp
にて公開中！！

ありんこだより

発行 NPO法人ありんこ編集部
編集責任者 一戸 由佳
住所 青森県弘前市大字富栄
字笹崎80-1
電話 0172-96-2774
Fax 0172-55-9591

これからの展望について～「ありんこ村」構想～

NPO法人ありんこも設立から8年目。あっという間だったような、とても長い道のりだったような。福祉の素人が法人を立ち上げて、どうにか潰れずにここまでこれたのは、支えてくださっている沢山の方々のおかげです。本当にありがとうございます。

主事業である放課後等デイサービス事業は、携わる職員が増えながら、利用する子どもたちとともに、今も成長を続けていると思っています。課題はあるものの、確かな前進を感じています。

これらに向けて、学校を卒業した子どもたちの居場所を地域に作りたい、障害のある、なしに関わらず、たくさんの人たちとともに生きていけるように、共生をめざす場所を作りたいと思っています。どんなに障害が重い人でも、人と関わり、社会と関わって、役割をもって生活できたら幸せだと思うのです。

「やよいのあかり」を立ち上げたときには「障害のある子どもたちの放課後の居場所を作りたい。」と単純に考えていました。今は、障害のある人もない人も一緒に安心して暮らせる地域そのものをつくっていききたいと思っています。1つの施設でなく地域づくり。壮大な目標になりますが、一つ一つ形にしていきたいと思います。

生活介護施設を核にし、日中活動として、農作業を取り入れます。それにより、雇用の創出、農福連携のいろいろな取り組みを進めます。また、世代間のコミュニティ作りのため、蔵のカフェを中心に集いの場をつくりまします。繋がった人たちと一緒に福祉の仕事を広げます。将来を見据え、福祉職を目指す学生の住まいも併設します。障害児者のためのショートステイの場はもちろん、例えば里子の受け入れのためのファミリーホームや、託児施設、子ども食堂、放課後児童クラブなど、多様な居場所を含む一つの地域。ありの巣のように、エリア全体で子どもの育ちを支え、慣れ親しんだその場所で、大人になっても安心して過ごすことができる「ありんこ村」を作りたいと思っています。

法人が今直面している大きな課題は、建設予定地が「市街化調整区域」内にあるということです。市役所に掛け合っても、そもそも「市街化調整区域」内には建物を建てられないとのこと。(自宅を建設する場合にも、いろいろな条件をクリアする必要があるほどです。)

建築の許可がおりなければ、そもそも事業をスタートすることすらできません。安易にいろいろ思いめぐらせていたことを素直に反省し、始まりから終わりまでの長期的な事業計画をしっかりと立てていかなければなりません。その上で、予定地に福祉施設を建設しなければならない必然的な理由を明確にして、納得してもらえるように頑張っていきます。

～社会福祉法人あーるどさんのこと～

11月19日(木)に五所川原の青森県発達障害者支援センター「わかば」(津軽地域)センター長の其田さんが来所されました。目的は五所川原で行われる研修の講師依頼でした。

現在五所川原とその周辺地域では医療的ケア児支援(福祉サービスや医療面など広く全般)を進めるには何が必要で、何が課題であるのかを協議する場を設置する予定だそうです。そこで、医療的ケア児支援のための情報収集の一貫として、来年2月に研修会を執り行うとのことでした。

10月に青森県医療的ケア児支援シンポジウムもあり、青森県内各地で医療的ケア児を受け入れ、支援していくための基盤づくりが進められています。NPO法人8年の経験を、少しでも新規開設に役立てることができればと思っています。

保護者面談のお知らせ

例年行われている「やよいのあかり」保護者面談ですが、来年2月の実施を予定しております。年明けから希望調査票を配布し、日程調整を行います。



わたしのおすすめコーナー

⑤ いちのへ耳鼻科院長 一戸 学

弘前市田園4丁目にある「パティスリーラポール」という洋菓子屋さんをご紹介します。かわいらしいケーキや焼き菓子のお店です。今年11月に4周年を迎えたそうです。ご夫婦でお店をやられていて、お子さんが小さいころは奥さまがお子さんを背中に背負って接客されていて、とても微笑ましかったそう。写真のケーキはチョコレートと洋酒の香りの濃厚な「アンフィクレ」です。チョコレート好きにはたまりません。コーヒーにもよく合います。



今の時期はクリスマスケーキも予約できます。毎年種類も豊富で目移りしますよ。おためしあれ～！！

理事長のつぶやき

「今年やり残していること」

師走を迎えた。

突然慌ただしくなったわけではない。10月の末、ハロウィンが終わったことから、世の中は急にギアチェンジをし、年末まで一気に加速して時が流れる。

毎年のこと、と言ってしまえば簡単だが、今年は少し勝手が違う。

2020年は東京オリンピック、パラリンピックの開催もあり、法人にとっては新規事業の計画を具現化するため、いよいよ正念場を迎えることになる。

やらなければならぬことは山積み。なのに遅々として前に進まない。

「やよいのあかり」を立ち上げたのは東日本大震災の翌年だった。今のような具体的な準備の最中の震災発生で、もしかしたら止めると言っているのか、などと弱気になったこともあった。

けれど、出来る信じ、言葉にして発し、思いを言葉にのせて繰り返した。形にするまでの生みの苦しみは一度体験している。一つだけ状況が異なるとすれば、それは生み出した時の年齢だ。

もう若くない。自分が守りに入っていると時々ふと感じる。だからこそ、やらなければ、きっと後悔する。

次の事業に進む準備と並行して、法人としてのコンプライアンス(法令順守)を徹底しなければならない。

私がこの7年間、苦手だからと言い訳をして、先送りしてきたこと。それをすっきりとして、新年度を迎えなければ。

苦手を克服することが出来る最後のチャンスと前向きに考えれば、劣等感の塊である自分が、少し変われるかもしれない。